

重点調査項目	緑の保全および公園の維持管理に関する調査について
発言項目	みどりの基本計画における多様な主体によるみどりづくり
	(発言主旨)「帯広を緑と花でつつむ花壇コンクール」等、市民協働のみどりづくりについて事業の効率化や財源を確保して継続すべきである。
Q	市民と力を合わせたみどりづくりには様々な取り組みがあり、代表的なものとして「帯広を緑と花でつつむ花壇コンクール」がある。成果と課題は。
A	「帯広を緑と花でつつむ花壇コンクール」は、みどりと花による潤いと安らぎのあるまちづくりを目的とした事業であり、昭和 59 年度から実施し、令和元年度は 81 団体が参加している。参加団体には、花壇面積に応じ 1 m ² 当り 2 株の花苗を助成し、市内の道路植樹帯、小中学校、チビッ子広場、コミセンなど公共施設の前庭などを花壇化していただいている。
A	成果は、街の景観向上、憩いの場の創出など、みどり豊かなまちづくりに寄与していることのほか、花壇づくりなどの軽作業による健康づくり、地域内の親睦の深まりなどが挙げられる。
A	課題は、基金事業であることから財源に限りがあること、協力いただいている地域の町内会や老人クラブ個々の実情として、会員数の減少や高齢化がすすんでいることなどが挙げられる。
Q	町内会長宛の「『花壇コンクール』に関するアンケート調査票」では事業が縮小廃止に向かっていく印象の設問もあったが、今後の方向性を伺う。
A	アンケートは、「花壇コンクール」の財源が帯広の森基金となっている中、基金残高が年々減っていき、近い将来、現状を維持するような形での事業実施が難しくなることが見込まれることから、今後の事業の在り方を検討する際の参考とさせていただくため実施した。今後も事業を継続していくための方策を模索していきたいと考えている。
Q	財源である帯広の森基金の状況を伺う。
A	帯広の森基金は、「帯広の森をはじめとする緑化事業推進の費用に充てる」ことを設置目的としており、平成 30 年度の使途金は、合計 26,607,654 円である。平成 30 年度末の基金残高は 106,376,224 円となっており、現状のまま事業を実施し続けた場合、あと 5 年程度で底をつく可能性がある。
A	基金の原資を確保する取り組みが重要と考えており、公園樹木や街路樹などの剪定・伐採時などに発生する幹や枝の売払い収入を基金に積み立てていくほか、帯広の森をはじめ、帯広の魅力を積極的に発信し、ふるさと応援寄附金の増加を目指すことにも取り組んでまいりたい。

重点調査項目 学校教育に関する調査

発言項目 働き方改革における校務支援システムについて

(発言主旨) システムの導入は長時間労働の解消につながらない。年間のランニングコストも膨大であり、効果の有無について独自に検証するなど、さらに検討を重ねることが必要であり、導入は慎重に行うべきである。

Q 9月定例会で市教委は校務支援システムに関して「導入について検討する」とした。現状を伺う。

A 帯広市ではこれまで、校務支援システムの機能やシステム導入が教員の業務改善に及ぼす効果、セキュリティ対策などについて、他市の状況や業者からのプレゼンなどの情報収集を行ってきたところ。

A 校長会からは、教職員の業多忙化の解消を図る手法として、校務支援システム導入の要望が上がっている。市教委としても、平成30年5月に策定した「帯広市立学校における教職員の働き方改革推進プラン」において、具体的な取り組みとして校務支援システムの導入検討を行うよう改正したところであり、引き続き検討を進めてまいりたい。

Q イニシャルコスト、及び1年間のランニングコストについて伺う。

A 業者からの見積もりでは、イニシャルコストについては、既存の通信環境では一部の学校で使用できないため、ネットワークの設定費用等として約175万円。また、ランニングコストとしては、システム使用料として年間約1,700万円程度を見込んでいる。

Q 校務支援システムの効果と課題を伺う。

A モデル事業ではシステムの導入により業務の効率化が図られ、校務に要する時間が学級担任一人あたり年間平均116.9時間削減されたという効果があったほか、児童生徒と触れ合う時間の増加や、システム化により全教職員間で児童生徒の情報共有が図られたといった結果も出ている。

A 一方、システム導入に伴い、それぞれの機能についての理解や操作を習得するまでに一定の時間を要するものと考えている。

Q 導入を進める道教委は「116.9時間の軽減効果は教員が子どもと向き合う時間の確保につなげていただきたい」としており、教師の長時間労働を解消するとの目的が後景化している。これでは無定量的な時間外勤務の常態化はなくなるのではないか。市教委の考えを伺う。

A 校務支援システムは教員の事務負担軽減に効果的な方策の一つであり、それにより、教職員が子どもと向き合う時間が増えることは教育の質の向上につながる重要なものと認識しており、勤務時間の有効活用が図れるよう、学校現場の働き方の改善に向けて今後も取り組んでまいりたい。

【各委員の発言項目】

① 道路の維持管理に関する調査について

- ・生活道路の整備
- ・点字ブロックの整備
- ・除雪体制の強化（檜山）
- ・農村地区の雑木管理

② 住まいに関する調査について

- ・公営住宅の管理

③ 緑の保全および公園の維持管理に関する調査について

- ・公園管理（指定管理者募集）と利活用
- ・帯広の森づくり
- ・花壇コンクールと帯広の森基金（檜山）

④ 帯広市都市計画マスタープランについて

- ・まちづくりと市民協働のあり方

⑤ 上下水道施設の維持管理に関する調査について

- ・雨水管の浸水対策と水道管路の耐震化
- ・水道利用料金値下げの考え
- ・環境対策としての稼働電力の利活用
- ・コンセッション方式に対する考え（檜山）

⑥ 学校教育に関する調査について

- ・外国人児童の教育
- ・大空小中一貫教育校の進捗状況、大空小学校の跡地利用
- ・教育基本計画とふるさと教育（檜山）
- ・校務支援システム（檜山）
- ・英語教育とJETプログラム
- ・コミュニティ・スクールとコーディネータの役割

⑦ 第4期帯広市子どもの読書活動推進計画（骨子）について

- ・学校図書館の充実と司書教諭の配置
- ・図書館の広域連携